



はじめに

た過年度から継続して実施している今治道路や松山駅西口南江戸線の建設および道前平野農地整備に伴う発掘調査、 の受託事業についても問題なく行うことができました。 く緩和の動きとなり、普及啓発事業等も開催形式の変更などの対応・対策、皆様の御協力により無事に実施することができました。ま この冊子は、当センターが二〇二二(令和四)年度に実施した発掘調査事業や普及活動事業などの概要をとりまとめたものです。 およそ三年に及ぶ新型コロナウイルス感染拡大は、私達に行動制限を強い、生活スタイルは変化しました。そのような制限もようや 報告書の刊行など

の関心を深めていただくことに役立つことができれば幸いと存じます。 本書が地域における歴史・考古学研究の資料として活用され、県民の方々に埋蔵文化財保護の重要性に対する理解と、

最後になりましたが、各事業の実施にあたり、御指導・御協力いただきました関係諸機関ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上

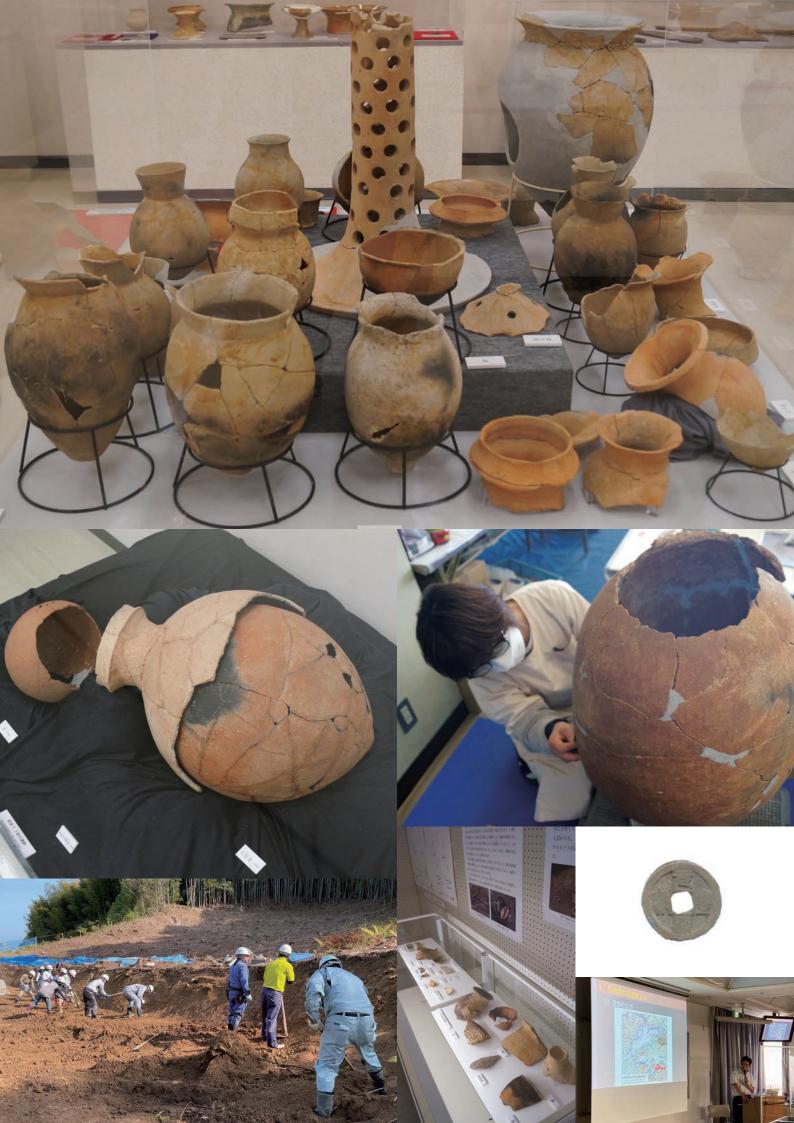
にます

二〇二三(令和五)年五月

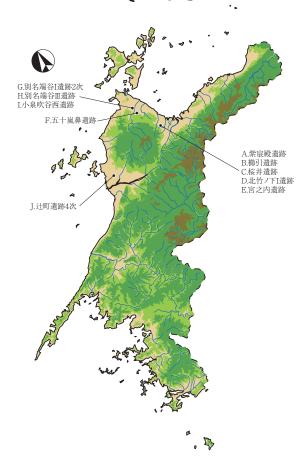
公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

理事長 前園 實知摊





屡比壳



はじめに 02 目次 04

Ⅰ発掘調査と整理作業 05 受託した発掘調査と整理作業 05

発掘調査を実施した遺跡 06

A. 紫宸殿遺跡 06

B. 櫛引遺跡 07

C. 桜井遺跡 08

D. 北竹ノ下 I 遺跡 10

E. 宮之内遺跡 12

F. 五十嵐鼻遺跡 13

G. 別名端谷 I 遺跡 2 次 14

H. 別名端谷Ⅲ遺跡 17

I. 小泉吹谷西遺跡 17

J. 辻町遺跡 4 次 18 報告書を刊行した遺跡 20

F. 五十嵐鼻遺跡 20

平・五丁風昇退跡 20 報告書刊行に向けて作業中の遺跡 21

Ⅱ 普及活動事業 22

11 百及石助事未 22 古代いよ発掘まつり 22

伊予の弥生集落 24

発掘へんろ展 25

ミニ企画展 26

現地説明会 26

職場体験 27

Ⅲ その他の事業 28

IV 組織 31













・ 発掘調査と整理作業

わせて「埋蔵文化財調査」とよんでいます。図化および各種データの分析などの整理作業をあを後世に残す報告書の作成に必要な遺物の接合・私たちは考古学的な発掘調査、およびその成果

蔵文化財調査を行います。
地方公共団体または当センターのような団体が埋開発者からの依頼を受け、記録保存を目的として、道路等の開発により破壊されるものについては、道路等の開発により保護されていますが、

て報告します。調査および報告書の刊行を含めた整理作業についここでは令和四年度に当センターが行った発掘

ただけます。当センターホームページ掲載のPDFにてご覧いターより各図書館等に寄贈している報告書およびターより各図書館等に寄贈している報告書およびのお、報告書を刊行した遺跡の詳細は、当セン

受託した発掘調査と整理作業

井戸枠 検出状況…別名端谷 I 遺跡 2 次

事業主体				契約面	唐 (m²)				受託金額	
(委託者)	事業名称		遺跡名	発掘調査	整理作業	住所	時期	備考	(円)	
	松山管内 埋蔵文化財 調査	F	五十嵐鼻遺跡	20.9	1,990.9	今治市五十嵐	弥生時代~中世	報告書刊行 (第 204 集)		
		G	別名端谷 I 遺跡 2 次	7,675		今治市別名	弥生時代・古代・ 中世			
国土交通省 (愛媛県)		Н	別名端谷Ⅲ遺跡	9,663 +[114.4]		今治市別名	弥生時代·中世· 近世		349,118,000	
[一部今治市と アロケーション]		Ι	小泉吹谷西遺跡	3,673.6		今治市小泉	弥生時代・中世・ 近世		今治市 アロケーション +[25,469,400]	
			新谷森ノ前遺跡2次		9,000	今治市新谷				
			新谷古新谷遺跡2次		7,000	今治市新田				
	道前平野 農地整備 事業	А	紫宸殿遺跡	1,060		西条市明理川	中世			
		В	櫛引遺跡	500		西条市明理川	中世			
農林水産省(西条市)		С	桜井遺跡	3,089		西条市安用出作 · 明理川	弥生時代・中世			
		D	北竹ノ下I遺跡	740		西条市石延・安用	縄文時代·弥生 時代~古墳時代· 中世		130,687,700	
			北竹ノ下 I ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡		17,135	西条市安用				
		Е	宮之内遺跡	239		西条市宮之内	古代・中世			
愛媛県	松山駅 西口 南江戸線	J	辻町遺跡 4 次	3,926		松山市南江戸	古墳時代・中世		73,700,000	

新川左岸に広がる中世の生産域

B: 櫛引遺跡 : 桜井遺跡 州

位置し、 紫宸殿遺跡は、 、大明神川一 扇状地と西条三角

3区

道前平野の中央に

度に調査を実施した1・2区の約30 および氾濫原に立地しています。 m 口 調 南東にあります。 「の調査区である3区は、 の境界付近に形成された谷底平 査では、 1 2 × 令和元年 今 野

m

前後 向に伸びるものと、 同じく、 画すると考えられる溝を24条検出 らした。 茜 伸びるものが直交しています。 から南東方向 のものが多く、 幅 は 30 中世の水田あるいは畑を区 60 cm へ伸びる溝は、 北東から南西方 北西から南東方 深さは20 P cm

この調査が 成果と 区は、 もあります。 坪 0

前焼の擂鉢・ 溝からは、 木製品などが出土して 備

れらの溝は区画の端部である可能 のとみられます。 で確認しました。 る溝が複数条、 つながり、 た。 小規模で調査区の北側と中央付近 条里制度によって区画された 東端にあたると考えられ、 北側にある55号溝とT字状に 調査区のほぼ全面 同時代に機能していたも 確認できました。 また、 52号溝は検出 90° に 屈曲 で検出しま 長90 3 性 す

土師質土器の土釜

す。

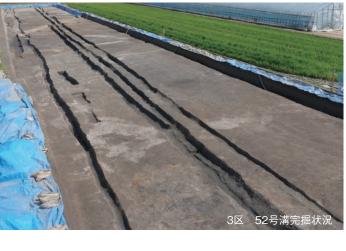
が明ら

かになることが期待されま

増田

おり、 13世紀後半以降に生産 域

付近、 す。 生産域や条里内の具体的な内部構造 を比較・ 遺跡は、 施した紫宸殿遺跡・ 位置しています。 の 一 今回、 このうち、 紫宸殿遺跡3区は東端付近に 里内に属するとみられて 条里制度の研究結果から同 明理川地区で発掘調査を実 検討し、 桜井遺跡2区は西端 今後、 13世紀後半以降 櫛引遺跡・ 3つの遺 桜井 1



2×

会派

令和4年度調查



て開発されたと考えられます。

ししんでんいせき

- ・所 在 地 西条市明理川
- ・所属時期 中世
- ・調査期間
- ・調査面積 1,060 m
- ・調査原因 農地整備事業
- ・担 当 者 増田晴美 佐藤直人

新川左岸に広がる中世の生産域



うち、2号~12号溝はN-発掘調査を実施した結果、 世 櫛引遺跡は、 主な検出 .後期の遺構を確認しました。 遺構は溝13条です。 1 ~5区の5箇所で 50° 1区から Е この 北

方向 から 郡に属していました。 て掘削されています。 る明理川地区は古代において、 は N 50° 東に振る) 41° Wと考えられてお 前後に方角を揃え 桑村郡の 遺跡の所在す 条里 桑村

> り、 不明ですが、 た。 を示すこれらの溝群は、 れます。 を区画する溝の 跡がないことから、 土しています。 ら14世紀代の土師質土器の土釜が出 行後に掘削されたことがわかりまし 遺物が少量のため詳しい時期は それとほぼ直角に交差する方位 溝内から13世紀後半か 溝の周囲に 一部であると考えら 水田あるいは畑 条里制の施 に建物の 痕

> > と、

遺跡内から古代

~中世前半期

0

紀後半以降に構築を開始しているこ

これらの遺構は、

61

ずれも 13

世

殿遺跡 調査事例は愛媛県内でも少なく、 跡が確認されてい 遺跡の所在する明 桜井遺跡でも同時代の生産 ・ます。 理川 地区は紫宸 生 産遺

0 遺

> 5.8m 3号溝 4号溝 6号溝 10号溝 7号溝 8号溝 9号溝 2号溝 5.8m 13号溝 1区 遺構配置図

5.9m

2号溝

くしびきいせき

- 西条市明理川
- 所属時期 中世
- 調査期間
- 令和 4 年 4 月~8 月 ・調査面積
- 調査原因
- 道前平野

増田晴美 佐藤直人

田中いづみ 佐野祐樹

発掘調査を実施した遺跡

増

田

紀後半以降、

安定した堆積環境とな

まであまり土地の利用がされて

11 前

遺物が少ないことから、

13世紀

かったと考えられます。

そして13世

り生産域として整備が進められ

たの

とは、

大きな成果と言えるでしょ

このようにまとまって確認できたこ

新川左岸に広がる中世の生産域3

桜井遺跡は、 令和2年度の1区の 4区 3区 しました。 П 今年度調査実施箇所 調查終了箇所(令和2年度

8.7m

16号溝

18号溝

20号溝

物が少なく、 検出しました。 0) 不明です。 0) 東側で竪穴建物1棟を確認して 遺構は、 この時期の遺構は、 2区において土坑3基を 土坑内からの出土遺 1 時期につい ては 1 X

は西条市安用出作に所在します。上は2区が西条市明理川、3・4

調査に続いて、

今年度は2~4区の

弥生時代終末期から古墳時代初頭

3箇所の調査を実施しました。

行政 <u>4</u> 区

墳

時代初頭

中

世後期の遺構を確認

査

の結果、

弥生時代終末期

また、 ます。 と考えられました。この成果から、 存在し、 わたって、 な集落跡は検出できませんでした。 ベ ての調査区で、 遺跡西側の4区では広範囲に しかし、 居住するには不適当である 不安定な氾濫原堆積物が 今年度の調査ではす 建物などの明ら

されています。

これらは、

水田

一や畑

Wを向くか、

それに直交して掘削

作の生産域を区画する溝と考えられ

ます。

全体的に直線的に掘削されて

ますが、16号溝のように途中で蛇

古代桑村郡の条里方向であるN ました。検出した溝は、 溝60条以上、 がっているものと想定されます。 部にあたり、 1区を含めた各調査区は集落の縁辺 中世後期の遺構は、 自然流路3条を確認 居住域はより北側に広 8.8m 2区を中心に ほとんどが 2区 上層遺構配置図 (中世後期) 41°

さくらいいせき

所属時期 弥生時代・中世

調査期間

・調査面積

農地整備事業 担 当 者 増田晴美 佐藤直人



過程ではないかと考えられる溝もあ 屈曲するものが存在し、 行したり、 18 20号溝のように%に 地割の変遷

と考えられます。 師質土器の土釜などが出土していま や須恵器・東播系須恵器の捏鉢・ 出位置と規模から、 東へ流下します。この自然流路は検 はありますが、大部分が北西から南 さがほぼ一定で、 て延べ68mを検出しました。 7号自然流路は、 1区から15~16世紀頃の遺物が 遺物は、 緩く蛇行する箇所 1区の上流部分 3・4区にお 弥生土器 幅や深

> 子を示すものと考えられます。 号自然流路は埋没谷の最終埋没の様 が確認できました。地形からも、 はこの谷の一部とみられる堆積状況 の北西には、 は中世後半と考えられます。 出土しており、最終的に埋没したの した埋没谷が存在しており、4区で 佐々久山付近から派生 本遺跡 7

> > す。 域は、 適さない土地であったと考えられま とから、 の3・4区では確認できなかったこ 2区で検出した生産域が遺跡西側 13世紀後半になっても生産に 7号自然流路より西側の地

増田

10.0m 4区 遺構配置図



道前平野に広がる弥生時代後期 古墳時代初頭の集落遺跡

した。 近世 北東部の 遺跡の北西部に位置する17区・19 代後期~古墳時代初頭・中世後期 調査の結果、 扇央部の 方ヶ森の山麓部に広がる新川扇状地 北 初 竹ノ下Ⅰ遺跡は、 今年度調 頭 の緩斜面 6a区の3箇所です。 の遺構 縄文時代早期・ 査を実施したのは、 ・遺物が確認されま に位置しています。 高縄山系東三 弥生時 区

時代別にみると、

縄

性堆積物がベー 文時代早期以降に形成された扇状地 に安定した土壌化層が複数形成され 竹ノ下Ⅰ遺 スとなり、 !跡の堆積環境は、 その上位 縄

> 的に河川より土砂が流入し、 えられます。 活するに適さない環境であったと考 る 6a 区周辺 は、 中世以前までは継続 人が生

ています

が、

本遺

それぞれの調査区にお

す。 棟・土坑17基・小穴81穴、 ける検出遺構は、 坑7基・ 19 14六、17区で竪穴建物2 小穴72穴となっていま ·坑15基·溝3条·小穴 |区で竪穴建物7棟・土 土器棺墓2基 6a 区 で

時代では、 しています。 穴や押型文土器が出土 0) 縄文時代早期の落と 遺構形成層下 17区の弥生時 面 か

時 と古墳時代初頭の竪穴建 弥生時代後期の竪穴建 代 弥生時代後期 初 頭 では、 17 区 (古 で 墳

跡北東部に位置 す 物 物、 区で確認した弥生時代後期の竪穴建 運ばれてきた石材などが確認されま から、 土器棺墓などを確認しました。 19区で弥生時代後期の竪穴建 吉備地域の高杯や讃岐から

17 物

また、 19 区 で 確認し た 同

した。 ました。そのため、 石材で製作された石庖丁も確認され 至っていませんが、 竪穴建物 から は 産地 弥生時代後期に 伊予産では 0) 特定には な 時 期

文 ◇×、 6a区 6b ⊠ 竹ノ下I遺跡 ''l la区。 8区 19区 [0区 lb区 北竹ノ下||遺跡 3á区 4b区 今年度調査実施箇所 調査終了箇所

きたたけのしたいち いせき

- ・所 在 地
- 西条市石延・安用 所属時期 縄文時代・ 弥生時代~古墳時代
- ・調査期間
- 調査面積
- ・調査原因
 - 道前平野
- 担 当 者 増田晴美 佐藤直人

田中いづみ 佐野祐樹

調査区配置図



す。 時期 ます。 遠隔 中 め 施した9区 心 本遺跡: 地域であったことが想定されま 0 地との交流 また、 竪穴建物 北西部 12 区 • 昨年度までに調 が があったと考えら と南東部が集落 確認され 13区でも同様 7 査を実 いるた

壺に土器破片を何枚も重ねるように

0)

19

区で確認された土

器棺墓は

棺

身

壺に鉢で蓋をするもの

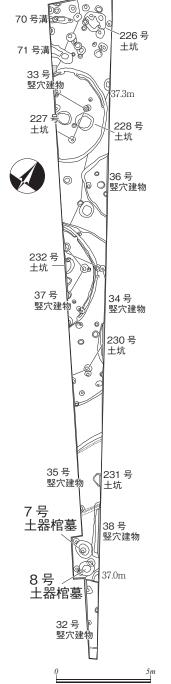
٤

棺身

0

検出 意味 時代後期の た。 接しており、 葬品などを確認することはできませ 蓋をするものの2基が確認されまし く2時期の遺構 で当センター える上で貴重な資料となりえます。 にまとまった検出例は少なく、 要があります。 んでした。 ・ます。 集落が本遺跡西側まで広がって |時代終末期~古墳時代初 査を実施し 小するの は計8基を数え、 0) そのため、 本遺跡の西側には前年度ま 両者の埋葬形態の差が何 か、 集落の地域性について考 今回の調査で土器棺墓の した北竹 主に縄文時代早期 と西条市教育委員会が 残念ながら人骨や副 今後検討していく必 遺物が確認され 北 下Ⅱ遺跡が隣 竹ノ下Ⅱ遺 本遺跡のよう 頭の 大き 弥生 • 跡 を 7

> 集落 は、 であったと考えられます 活 13 氾 部 なってきましたが、 に移動する事 か れ は が たことが推察され 、ます。 5 するには適さな 流 濫により は 14 出 世紀: -世後期 が山 入するため、 中 土 6a 時代が下るに 世以前まで河 L X これまでの 麓部 後半頃と考えら 7 の小穴から 一砂礫が 、ます。 が明ら から低 近世 ます い環境 継 初 が調査 時期 捏なばな が生 低 かに 続 Ш 地 0 頭 n 的 地 部



37.4m



19区 遺構配置図





所です。 遺跡の南東部に位置する6区の1箇 ました。今年度調査を実施したのは、 頃にかけての遺構 成された扇状地上に立地していま 森を水源とする大明神川によって形 宮之内遺跡は、 調査の結果、 古代後期~ 高縄山系東三方ケ ・遺物が確認され 中世中

向

た土壌化層を形成しています。 での河川による氾濫堆積物をベース 宮之内遺跡の堆 検出遺構は、 その上に古代以降の安定 掘立柱建物跡2 積環境は、 古代ま 棟

1号掘立柱建物

掘並柱建物 完掘状況

2号掘立推建物

小穴73穴となっています。 一坑7基・ 溝2条・ 自然流 1 条

時期には古代以降の条里整備が及ば

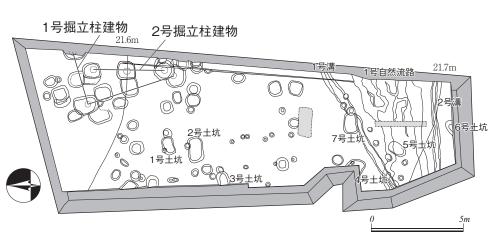
を、 ます。 す。 前後、 側を流れる大明神川の氾濫原に位 な建 することから、 る2号掘立柱建物は、 へなり、 、挙げられます。 しています。 m程度で柱穴の規模がや 古代の主な遺構として掘立柱建 また、 1号掘立柱建物は北西方向を指 (物であったことが推 建物はそれぞれの主 柱間距離が約2mあり、 2号掘立柱建物はほぼ真北 1号掘立柱 これらの 1号掘立柱建物構築 柱穴の 柱間 建物に重複す 建物は、 掘 源察され 一軸方向 や縮小し 距 方は1 離が 大き 南 が 置 ま m 物

> の後、 以降と考えています。 1 13 定できるような遺物は出土していな と想定されます。柱穴から時期を確 条里に則った区割りを施工したも ため、 ませんが、 地形に制約されたと考えられ、 2号掘立柱建物構築時期には 建物の時期特定には至って おおよそ10 世 そ

0

ことから、 は、 を確 宮之内地区は \mathbf{III} 釜 下 東 います。 や位瓦が部 たと考えら 周辺では、 紀以降とみられます。 などが出土し 位部から古代の須恵器や土 播系須恵器などが出土して 中世では、 白磁碗やはない 認 積 器などが出土している から糸切りの土師器 しています。 また、 最終埋没は概 た地に集落 土坑や小穴など 古代以降に安定 中世 備前焼の擂鉢 れます。 自然流路では、 ています の荘園であ 遺構から が ま 本遺 展開 ね 13 が

> ります。 調 (V 情報は得られませんでした。 地域ですが、 る吉岡 て、 査で当該期の集落や流通展開に 詳細に調査していく必要があ 一荘の荘域 今回 内に位置する重 の調査では詳 今後 細 要



6区 遺構配置図 みやのうちいせき

- ・所 在 地 西条市宮之内
- ・所属時期 古代・中世
- 調査期間
- ・調査面積
- ・調査原因 道前平野
- ・担 当 者 増田晴美 佐藤直人 田中いづみ 佐野祐樹

丘陵は、 に位置 Ļ 丘 長く延びる丘陵です。 陵 五 蒼社川 一十嵐鼻遺跡は今治平野 北端に近い 、作礼山より分かれ北西し、蒼社川中流右岸の五し、続いまが 注ぐ谷山川に隣接し 北 東側裾部に所在 遺跡は 0 西側 五. 南 十 西 嵐 側

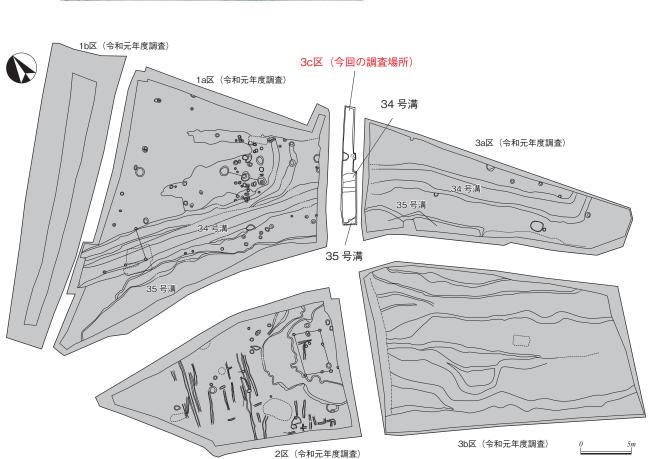
層の して います。 道の影響が及んでいるものと考えら 直下で北東側を中心に包含層が分布 補完する位置にあたります。 図 今回は農道部分の調査であり、 堆 いました。 一のように令和元年度の調 積がみられたことから、 調 査区の大部分で砂 耕作土 査区 旧

五十嵐

完掘状況(南西より)

れます。

が は隣接調査区と同 は れ X 確認されました。 σ 中 ました。 延長上で検出されており、 35号溝はともに令和元年度調 世 構は溝2条と小穴2穴が検出 後期が中心と考えられます。 出土した遺物から、 0) 溝であること 時期 両



遺構配置図

いかなしはな いせき

- 今治市五十嵐
- ・所属時期 中世
- ・調査期間
- ・調査面積
- ・調査原因 -般国道 196 号

今治道路建設

・担 当 者 首藤久士

別名端谷 | 遺跡 2 次



AK

Ď

小泉吹谷西遺跡

別名端谷Ⅲ遺跡 (R4)

別名端谷Ⅲ遺跡 (R5)

別名端谷工遺跡

別名藪下遺跡 (R3)

別名寺谷立遺跡

次調 に位置 してい 陵東 して 開析谷の 部、 査区に設定して調査を実施しまし されました。 伴 側 側 査 r V 斜 行政区分では今治市別名に位置 名端谷Ⅰ遺跡は今治平 、ます。 、ます。 平成14年度に発掘調 面 斜 地 品に位置 0 谷筋および丘 面 丘陵 谷を 今回 本遺 次調査: 南部 挟んだ向か 開 析 の2次調査 跡は日高丘 今治新都 谷 に形成された小 陵斜面 の谷筋 地は谷奥部 査 野 l, 陵南部 が実施 配に立地 を6 市開 側 地 0) 東 は 丘 発 調 1 0

然流 期 構 9 基を検出しました。 (7世紀後半~ 半 遺 の調査を行い、 (構10基 掘立柱建物8棟 ず 路 15 4条・ ħ (0 16 調 小 穴 1132 穴 世紀)、 土坑 査区でも1 11世紀) 46 基 遺構は竪穴建物 2)と弥 柵 面 性格 溝 列 面 目 67 10 生時代後 目は中世 は 不明 条・ 本 古 自 段 代 遺 5

弥生時代

13 拡 弥生時代の が あります。 が ŋ 主に竪穴建物 遺 構は2~ 段状遺構 4 と は 区を中心 段状 周 进 遺

掘 を

立

柱

建物、

自

1然流

路

土 物 6

古代の遺

種は、

1

3

5

心に確認され、

主に竪穴建

別名成ルル谷遺跡 す。 うも と推 生時代後期 包 て用 業場などとし n あ 0 周 含 は や ら ŋ 溝 3 建物 測さ の段 層 ま 0) が うす。 など から X 5 溝 巡 で れ れ ゃ 状 が る 0 弥 は ま た 作 遺 が 伴

建物で、

周辺の包含層から焼塩

が多数出

土しました。

内面に布

Ħ +

を残すものと布目痕がみら

ħ

な

b

出であることから、 期 は破片で、 出 と推測されます。 流 土器が多量に出土しましたが、 展開していることが推測されます。 [古代] 土 末 れ込みによって二次的に しており、 中 期 谷の上流 初 頭 当該期 0 また、 土器が少 周辺域に集落 や周辺域 の遺構が未 弥生 ン数なが に堆積し、 から 時 大半 代 た 0

検 B



つみょうはしだに いちいせき <u>にじ</u> ・所属時期

弥生時代・古代・中世

・調査期間 令和4年4月 ~令和5年3月

埋む

一納遺

が展開

して

竪穴

物

は

4 棟

確認され、

平 (V 、ます。

·面形

は隅

丸方

うち2棟では、

周

囲に周壁

・調査原因

一般国道 196 号 今治道路建設 今治市道別名矢田線

・担 当 者 三好裕之 松葉竜司 岡本真治 古谷里砂子 稲田亜希

発掘調査を実施した遺跡

溝を確認 形です。

しました。

3区で検

8号掘立柱建物は1間

X 2間

0 出

側

考える上で重要な資料です

区の北西隅で検出した土器

埋

報告がない

他地域との

交流

n 0

0)

2種

類があり、

今治平野ではこ

まで内面

品に布目 ため、

痕を有する土器

5区 1号井戸遺物出土状況

遺構(36号小穴)は、土師質土器甕の口縁部に土師質土器杯を逆さまにして流いました。副葬品が確認て蓋にしていませんが、蔵骨器等の可能が推測されます。

造は愛媛県内で初めての事例です。 積みを組み合わせた井戸で、 側にさらに石積みが巡る、 および井戸側として使用し、 円形を呈する1号井戸が検出されま や蓋と推測される木製品などが出土 区の北側中央では、 丸太をくり抜いた刳物を水溜 この井戸は廃絶時に祭祀を 直 径 1.9 刳物と石 その外 この構 m 0)

ます。
11世紀ごろに廃絶されたと考えられしています。出土土器の年代から、

6区の南西側で検出された57号溝のは、高台が非常に高い土師質土器・校、土師質土器杯や皿・黒色土器・た。これらは人為的に廃棄された状た。これらは人為的に廃棄された状た。

ます。

れらの溝では越州窯系青磁や緑釉陶は北西から南東方向へ向かって流れ、出土土器から9~10世紀にかけれ、出土土器から9~10世紀にかけれ、出土土器から9~10世紀にかけれので流

器、 設が存在していた可能性が示唆され 認されており、 房的な性格をもっていた官衙関連施 どが出土していることから、 滓などの鍛冶関連遺物や施釉陶器な 炉などは検出されていませんが、 周辺の遺跡では鍛冶炉や製鉄炉が確 る傾向があります。別名端谷Ⅰ遺 出土せず、 れらの遺物は一般の集落ではあまり れらの溝からは風字硯や土師質土器 このうち緑釉陶器は全体の7割近く の三足盤なども出土しています。こ な器種・器形があります。また、こ つⅢや輪花椀、 内でも有数の出土量を誇ります。 内面に陰刻花文の文様をも 陶器が約26点出土し、 官衙関連の遺跡で出土す 今回の調査では鍛冶 小椀・耳皿など多様 官営工 愛媛 鉄

[中世]

自然流路が確認されました。 中世の遺構は、1・2・4区では に、その平坦面を中心に掘立柱建物 と、その平坦面を中心に掘立柱建物 と、その平坦面を中心に掘立柱建物 とています。一方で3・5・6区では、 となど失われていました。しかがほとんど失われていました。しかがほとんど失われていました。しかいるとんど失われていました。

す。 ます。 た。 号柵列・6号柵列を確認し、 央で検出した3間×4間の総柱建 柱建物3棟・ L字状、 2区では造成された平坦面に これらの建物を囲むように、 4・5号掘立柱建物は調査区 北西側には庇が付帯してい 3号性格不明遺構からは、 後者はコの字状に巡って 柵列4本を検出 しまし 掘立 天 5 ま 物



6区 57号溝遺物出土状況 (蓋か?)が出土 自然流路では、 直然流路では、 2号 は、 1日系瓦質土器

目茶碗と銅製品

ます。 期と一 総柱建

物群

出された遺構群 構の時期も、 建物や柵列が確認され、 ていたことが考えられます。 2時期以上に渡って集落が形成され 4区でも造成された平坦面に掘立柱 出土遺物から2区で検 と同時期であると推 これらの遺 1 区 と

冶活動の痕跡である鉄滓も多数出土

鍛冶炉などの鍛冶関連遺構は2

る状況が確認されました。

また、

など、日常容器が多数廃棄されて

貯蔵具である 亀山系瓦質土器

号自

然流路の西側に展開しているこ

物などの指向方向から、

少なくとも

た遺構群の時期は中世後半(15

遺構の重複関係や建

とが推測されます。

2区で確認され

暦1546年にあたり、 器椀などが出土しました。 然流路は、 札が出土しました。天文拾五年は西 歳月吉日(吉辰)」と墨書された木の ろに機能し、 V字状を呈する深い流路で、最下層 から備前焼甕や染付、 と推測されます。 3・5・6区で検出された3号自 □大般若経六百巻 断面形がU字状もしくは 近世段階に埋没したも 5区では、 天目茶碗・漆 天文拾五丙午 16世紀ご 奉

域

住

は

器)に打ち付けられた札 考えられます 0 叮 能 性

待されます。 果を得ることができました。次年度 から、 染付・墨書された木の札などの出 建物の大きさや、天目茶碗・銅製品 集落が営まれており、 陵斜面を削平して造成した平坦面 世社会を考える上で重要です。また、 見事例が少ないなか、 東側の丘陵部を調査する予定のた の社会を考えるうえでも貴重な成 していたことを推測でき、 今治平野では中世 この地域の歴史の解明がより期 別名端谷Ⅰ遺跡に有力者が居 |後半の集落の 今治平野の中 本遺跡では 別名地



墨書された木の札(赤外線写真)



H 跡 跡

地 に刻まれた 世後半以後の開発の

が撮影 には近世に成立したと考えられる 状の窪み は、 がえます。 は湿地状 形をなしています。 面 小泉1丁目に所在します。 は今治平野 越 行政 す 智郡地 品かれた 北に向 名端 る 高丘 した空中写真を確認すると池 区分では今治市別名および同 尾 浴Ⅲ遺 が見られます。 の低地をなし、 根 図 陵南部 かって大きく傾斜する地 0 から 北 山 (愛媛県立図書館蔵 東部に位置 \mathbb{H} 谷筋に 池 の小さな開析谷 谷筋の出 の存在もうか また、 かけて立 戦後に米軍 この遺 Ļ \Box 近辺 現在 付 地 近

泉吹 ないました。 山裾の開析谷付近 闘岩軟岩盤を確認 別名端谷Ⅲ遺 谷西遺跡は尾根と接する谷筋と 名端谷Ⅲ 遺 跡は支尾根先端、 跡 しましたが の発掘調査では花 で発掘調査をおこ 遺構 小

跡 ·小泉吹谷 西 遺 跡 ŋ には ました。 中 初 0 谷筋での 世 その 詳 後半以 溝 頭 日条・ 中 調 後

に留まりました。 遺物ともに認めら 急峻な尾根先端の れず、 地 形 が確認される もともとの に 5 0 13

小 泉吹谷西 の遺構 遺 一跡では、 遺 物 弥 を確認 生 一時代 L

だものと推察されます。 構と考えられます。 込んだ砂礫土が幾層にも堆 土したことから、 から遺構が広がり、 への谷に向かっての急斜 表層が滑り落ちて二次的に流 粘土質・シルト質の土壌や尾 細な年代は不明ですが、 後期の弥生土器片が多く出 から弥生 小穴10穴を検出 査では、 弥生時代に伴う遺 一時代前期 土 谷筋南側 一器が流り 支尾 面 積してお 根 で土坑5 れ込ん の尾 から 末 しまし 谷筋 根 中 根 n 中

た痕 削平し、 面を中心に柵列2本 細 ず 支尾根裾部では緩斜面を人為的 跡を ħ 面 VA 土 溝 も標高が高 坑 東側に2面の平坦 幅が狭い平坦 10条が 確認しました。 4 基 伴 溝 2 条 側に排 ています。 (小穴11穴を伴 面を造り出 谷筋 一面があり、 自 水のため l然流 の西 平 坦 側 L 13

> 5 す。 5 然流路や小穴の中 的 5 な営み 17 条 世 0) 小 紀 があったものと考えられ 時期にかけて断続的に人為 | 穴 9 穴を検出 0) 遺 物 が出 Tから16 土したこと しまし 世紀後半 た。 か か 自

えら 青灰色 状 ち、 ことができます。 遡 る植林の 湿 0) れ 治 確認しました。 ように湿地状の地形が広がることを わ みに該当するものと理解され 地状の ます。 れた様子を発掘調 0 林 粘 0 南高校果樹園付近まで広がりをも Ш ても)地形をなしていたものと考えら 前述の米軍撮影写真の池状の [裾の 九 南 0 性 ため 北 土 土砂 ための造成を含めて、 山 地形はもともとは溜池と考 緑灰色の粘土・シルトなど 30 調 16 壌が厚く堆積して 世紀に日 中の谷筋で確認され m 査では、 \hat{O})堆積は約2.3 · 東西27 山 少なくとも現在の今 |林開 高丘陵で 谷筋と接続する 査からうかがう 発が近世以 m以上 (松葉・ m に及び ておこな 61 0 ます ・まし 湿 後、

こいずみふきだに にしいせき

歴史

・所 在 地 今治市別名・小泉

弥生時代・中世・近世 調査期間

~令和5年3月

(別名端谷Ⅲ遺跡)

(小泉吹谷西遺跡) 調査原因 一般国道 196 号

今治道路建設 今治市道別名矢田線 三好裕之 松葉竜司

青木聡志 井下涼子

古谷里砂子

岡本真治

稲田亜希

発掘調査を実施した遺跡

小泉吹谷西遺跡

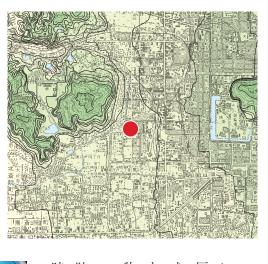
D区

土層断面

小泉吹谷西遺跡 支尾根裾部の平坦面と溝・柵列(南東より

往古の村落の光景

世と古墳時代の集落の調査



この一帯に広がる辻町遺跡の記録保 行っています。 存を目的として、 備が進められています。発掘調査は、 道路事業 体交差事業の一環として、 愛媛県では、 「松山駅西口南江戸線」の整 JR松山駅付近連続立 令和3年度から 都市計 画

す。 高地 て生活の場として利用されていたよ 高い場所 遺 この一帯は宮前川の旧河道と微 」が入り組んだ複雑な地形で、 一跡は松山平野の低地に位置しま が古墳時代から中世にかけ

> 区画 を対象に調査を行 物を発見しました。 と古代から中世にかけての遺構と遺 に隣接し、 今 一回は、 D1w | Z | D2w | Z | D2e | Z | E1 | Z | 道路などで隔てられた5 令和3年度 61 古墳時代中期 調 査 地の東 〒 E2 区 側

跡を、 時代初頭頃まで長期間に渡って続い 古墳時代では5世紀後半頃の集落 中世では平安時代末から江戸

ます。 には土師器の甕や高杯、甑などが は 残されていましたが、建物を廃屋 がわかります。カマドとその周辺 の屋根を支える構造であったこと 4つあることから、 カマドが造られています。 方形をしており、 にする際のマツリの跡と考えられ D2w 建物の平面形が5m四 区で発見した4号竪穴建物 北西壁の中 4本柱で建物 柱穴が 方の正 央に

4号竪穴建物

D2w 区

ツリに用いる器物に行われること がありました。こうした行為はマ ざと穴を開けるなどしているもの 師器の甕などがたくさん捨てら 面 ていました。これらの中には、 には、 集落東側の低湿地(E2区)の北斜 集落のなかでマツリが行わ 須恵器の 高杯や壺、 わ 土 れ

川が流れていたようです。 落の東側は低湿地で大雨の時には 穴建物(住居)を確認しました。 た集落跡を検出しました。 古墳時代の集落跡では7棟の竪 集

つじまちいせき よじ

松山市南江戸

所属時期

古墳時代・ 中世(平安末~近世初頭

調查期間 令和4年4月

調査面積

都市計画道路 松山駅西口南江戸線 建設工事

当 者 眞鍋昭文 石貫睦子





が行われていた可能性も考えられまりしばしば洪水の被害に見舞われるりしばしば洪水の被害に見舞われるりははしば洪水の被害に見舞われるが、この地域は宮前川の氾濫によりしばしば洪水の被害に見舞われる

重複して掘られた3基の井戸

す。

おり、 足跡が数多く残されていました。 がわかりました。水田には人や牛の 墳時代に低湿地であった場所には中 世後期には水田が広がっていたこと ました。集落跡も墓地も令和3年度 じような違いがあることが確認され も川の両岸で土地の利用の仕方に同 がわかっていますが、 査で東西に流れる川の北側 に広がっていることが確認できまし の調査箇所よりさらに東に展開して そして新たに、 方、 南側に墓地が作られていたこと 集落は凹区を中心に東西と北 中 世では令和3年度の 集落の東側の古 今回の調査で に集落

といいであるEI区からは、井戸が5基検出であるEI区からは、井戸が5基検出であるEI区からは、井戸が5基検出であるEI区からは、井戸が5基検出されました。中でも、集落跡からは数多くの遺構が検出されました。中でも、集落跡からは数多くの遺構が検出されました。中でも、集落いらはとがわかりました。

も近接していますが、その内の3基は互いに重複して掘られてい場所から、集落の中心に近い小高い場所から、集落の中心に近い小高い場所から、

した。
した。
した。

(石貫睦子

予府中に所在した

15世紀頃の武士居館 か

告書を刊行しました。 般 令和元年度および令和 国 査を行い、 道196号今治道路建設工事に 令和4年度に報 4年度

一跡からは弥生時代から近世

0 遺

南

側

13

隣

接する五十嵐丘陵

上

伊ぃに

0)

が、 心に旧 両者は 物が出 走 が中心となります。 うちち 中 南 溝4条などが確認され、 世では掘立柱建物1棟・ 34 34号溝は一辺50m程度の規模 :側で一部重なり合いながら並 方形区画溝であり、 土しており、 河道に侵食されていました 37号溝は一 37号溝が注目されます。 中世後期 辺20m以上、 西側を中 それら 土坑3 の遺構

> より 規模の方形区画溝を伴う屋敷地とみ も15世紀を中心に機能したと捉えら 5 n られ、 ます。 武士居館と推定しました。 県内のほ 34号溝は方半町 かの事例や出 (約 50 土遺 m 物

鳥生屋敷など、複数の平には馬越和多地遺跡の方には馬越和多地遺跡の方がうことができ、同下流 は明らかではありません。 性が考えられますが、 から河川交通と関連する性格もうか 加奈志神社が鎮座しており、いかなり、 また、 参道入り口に当たることから関連 蒼社川に隣接していること 同下流の周辺地域 居館との関係 方形区画溝や 内ない 現在 . 社。

複数の平地 在 に居館が L てい た 所

と想定されます。

溝の時期はいずれ

34・37号溝 完掘状況(南西より) ます。 検出 と考えられ 小穴の遺 などから上 側 X 「され 画 K 溝 は、 た 0



ます。 影響が大きく及んでいると想定でき に展開し伊予国府や越智郡家との関ると、五十嵐地区周辺および下流域 連が想定されている中寺・八町遺 と周辺地域の調査事例を併せて考え のような大規模な旧河道の侵食状況 より大部分が流出していました。 氾濫に関連すると推定した旧河道 でいたと想定できますが、 定されていたよりも河川氾濫による 位階層と関連した建物群が建ち並 の遺構の残存状況は、 これまで想 蒼社川 h

(首藤

34号溝 完掘状況(南より)

いかなしはないせき

- 所属時期

- 調査原因
- 報告書担当者





遺物注記作業







遺物の実測作業 (その1)



遺物の接合復元作業 (その2)

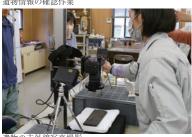












整理作業中の遺跡

○新谷森ノ前遺跡2次

担当者:柴田圭子 乗松真也 土井光一郎 石貫弘泰 沖野 実 山口莉歩 中野邦子 古谷里砂子

○新谷古新谷遺跡 2 次

担当者:松村さを里 藤本清志 西川 真美 土井光一郎 岡 美奈子 富山亜紀子

○北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡

担当者:池 尻 伸 吾

よんでいます。 報告書刊行に向 け Ć の作業を私たちは「整理作業」と

る「実測・トレース」・「写真撮影」など多岐にわたります。 元」・観察を行い図化して報告書に掲載できるようにす わせて足りないところを石膏や樹脂で補う「接合・復 浄」・出土情報を直接書き込む「注記」・破片をつなぎ合 遺構ごとにトレースを行います。 現場から持ち帰った遺構の測量図は全体および個別 土遺物に関し て行う作業は、 まず水洗 す る 洗

構およびその他の情報をあわせて多元的に分析・ ながら報告書を作成していきます。 れらの基礎的な整理作業を行 0 たの ち、 遺 物 討 遺

普及活動事業







Ш

は、

松山市内で前

前期展「掘ったぞな松

遺跡 からは松山市辻町遺跡 県埋蔵文化財センタ 度発掘調査が行われた の古墳時代集落と中 の速報展 で、 愛 世 1 媛





contents

見学者数:1115名開催場所:松山市考古館開催場所:松山市考古館開催期間:令和4年7月16日(土)~8月28日(土)速報展前期展「掘ったぞな松山2022」

報 内告 会

参加者数日 容

: 辻町遺跡4次の発掘調査成果 19名

遺跡・近世の松山城三之丸跡などが 代の若草町遺跡・中世の南江戸上沖 立埋蔵文化財センターからは古墳時 紹介されました。 の墓地などを紹介しました。 松山 市

(松村

2022

愛媛県埋蔵文化財センター・松山市立埋蔵文化財センター共催

りは、

平成24年度より 松山市連携事

古

代い

· よ 発

掘

ま

愛媛県・

業として開催してい

ま

速報展前期展「掘ったぞな松山

2022

愛媛県埋蔵文化財センター・松山市立埋蔵文化財センター共催 2 0 2 2













竹ノ

下

İ

II 遺

<u></u>
跡

の弥生時代後期

0) 北

弥生時代中期の 遺跡の速報展で、

円形周溝、

西条市 井遺

西条市桜

跡

集落や土器棺墓、

今治市別名藪

下遺

外の

県内各地で発掘調査が行

わ 山

n

た 以 展

61

0) ょ

えひ 発 掘

め ま

は、

松 0 後

市

「古代い にしへ

0

ŋ

期

跡の

中世

集落のほ

か、

報告書を

刊

代集落などを紹介

講演会と報告

親子考古学講座を行

いました。

た新居浜市中

村田

所遺跡

跡の弥生

時 行

報 内告 会

容

参開 加者数日

石貫睦子・松村さを里

講 参開講内演 加催演 会 見学者数:1322名開催場所:松山市考古館開催場所:松山市考古館開催期間:令和4年9月3日(土)~11月6日(東報展後期展「いにしへのえひめ2022」 加者と一個などのである。38令山文 名和内献 4年10月8日(土)譲(伊予史談会会長) $\widehat{\mathbb{H}}$

- 23 -

(松村)

〜最新の研究成果からその実相に迫る〜

愛媛県埋蔵文化財センター・愛媛県生涯学習センター共催











EXPOSITION





など立地や環境の異なる集落 予 習センター 査成果を紹介しました。 ター の弥生集落をテーマに東予・ ています。 15 南予の平野部や内陸 回目となる令和4年度は、 -と共同

Щ 間部

中 伊

0

調

を行った今治平野の弥生集落を中 東予では、愛媛県埋蔵文化 銅剣埋納遺構や鍛冶炉、 が今治道路関連で発掘調査 財 龍 セ 平成19年度より、

]で企画展を開催 愛媛県生 涯学 た。 を描 61 た絵画土器などを展示しま

北井門遺跡の東子では、 を取り上げ、 介しました。 0 松山平野の大集落を紹 大型器台など祭祀土器 文京遺跡の調査成果 Ŕ

や興野々寺山書集落のほか、中 様子を紹介しました。 になった平野とは異なる弥生集落 南予では、 内陸 「遺跡など、 宇和盆地に広がる弥 0 村島宮の首遺 近年明ら か 生

(松村

contents

展示「伊予の弥生集落

見学者数:738名開催場所:愛媛県生涯学習センター内 愛媛県人物博物館開催場所:愛媛県生涯学習センター内 愛媛県人物博物館開催期間:令和4年6月4日(土)~7月10日(日)~最新の研究成果からその実相に迫る~」

参加者数:49名 歴史・考古学講座(愛媛県生涯学習センターで開催)が含えひめ 歴史・考古学講座(愛媛大学名誉教授) 講演 者:下條信行(愛媛大学名誉教授) で開催)が含えひめ 歴史・考古学講座(愛媛県生涯学習センターで開催)

参加者数:50名開催 日:令和4年6月12日(日)開催 日:令和4年6月12日(日)開催 日:令和4年6月12日(日)第2回「文京遺跡と多様な弥生文化」

第3回「石斧を製作した集落・村島宮の首遺跡」開催 日:令和4年6月26日(日)開催 日:令和4年6月26日(日)

[国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展実行委員会

とが

わかりました。

鍬

0

製

作工程

が

かる資料で、 (ミカン割材

鍬

の素材となる木製









(砥部町

の河川

跡

から、

建築部

材

P 墳

遺

跡

阿方遺跡は、

縄文時代晩

期

開館時間 9:00~17:00

会期中の休館日 月曜日・5月6日(金)

として大下田1 た遺物の展示をおこないました。 をとりあげ 大下田1号窯跡は 当センター 跡として阿 前遺跡 ζ から 号窯跡 各遺跡 方遺跡 (今治市)、

めから出

土し

かでも、

漆塗り

Ó

木製短甲は

玉

(今治

市 Ш

種多彩な木製品が出土してお

b, 全

な 的

にも珍しい貴重な出土例です。

里

農耕具・ 時代後期

装身具・祭祀具とい

つ

令和4年度 四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展

4д29% ~ 7 д10%

愛媛会場 松山市考古館

展示解説会 6月18日(土) 料料/13:30-15:00 「四国の阻土と暮らし - 山と人々 石質込命・音節女士((公別) 愛慕根理斯 「原集期間) 5月5日へ6月1日(金) 定員:各60名 + 境湾企場示解設会と

令和4年

今年度 しました。 辺・ 生活に関連した展示を企 山とともに営まれ の発掘へんろ展では、 里 Щ の遺跡にスポ た古代 ット Ш

は、 山 辺 の

直

柄平鍬とい

0

た木製品を中心に展

示しました。

品 わ

鍬

の連結未製品

7月9日(土) MBI/13:30~15:00 「近世の砥部焼」 石両ひとみ氏(愛媛県教育委員会専門学芸員 [募集期間] 6月8日~6月22日(必備) の場合は、拍選となります。

古代も、四国はひとつ

西 生 暦 焼 天 1831 辛 年) 天 保 卯 0 2

麻

ました。 道 |具などを展示 微 高地と低 地 が

交互に繰り返され

る起伏に富

Eんだ場

が 所に営ま 行 谷 われ 木 森 製品 7 前 n 遺跡 11 0) 7 製作 たこ 1 る で

contents

示「四国の風土と暮らし

砥部焼の

窯跡

見学者数 開催期間 2080名 松山市考古館 松山市考古館 2080名

 $\widehat{\mathbb{H}}$

肎

日

書

がある鉢

P

窯

見開 開 開 開 開 開 開 催 島 会 場 数 所 間

1061名 1194名 (土)~3月12日 令和5年1月7日(土)~3月12日 Nセンター (日)~9月12日(

日

参加者数 開催 日 18名 おり (受媛県埋蔵文化財センター) 音藤久士(愛媛県埋蔵文化財センター) 音藤久士(愛媛県埋蔵文化財センター) を でいます (愛媛県埋蔵文化財センター) おり (で) おり () まり () おり () おり () まり () おり () はり () おり () はり
説明 老展示説明。

者会

- 25 -

石貫弘泰

contents

見学者数:138名開催場所:愛媛県埋蔵文化財センター 1階展示コーナー開催場所:愛媛県埋蔵文化財センター 1階展示コーナー開催期間:令和4年4月14日(木)~令和5年3月17日(金)展示[新居浜バイパス関連遺跡群 発掘調査速報展]









バイ パ ス関連遺跡群 発掘調査速報展」

ミニ企画展

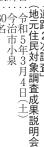
「新居浜

現地説明会 別名端谷 4次調査」 -遺跡2次調査」 (地元住民対象)

「別名端谷ーは「辻町遺跡4ヶ

遺跡2次調査」 (地元住民対象調査成果説明会)

contents









- 26 -

場場

職 info. 担当:增田晴美参加者数:3名(西条市立小松中学校)参加者数:3名(西条市立小松中学校)開催場所:桜井遺跡発掘調査現場開催日:令和4年7月7日(木) 体験







担参開開 加者場所 当数所日

: 松村さを里・西川真美・富山亜紀子: 3名(松山市立松山南中学校): 愛媛県埋蔵文化財センター(今和4年11月9・11日(水・金)

担参開開 加者場所 当数所日

. 松村さを里・西川真美・富山亜紀子: 2名(伊予市立港南中学校) - 愛媛県埋蔵文化財センター - 参和4年10月24・25日(月・火)

担参開開 加者場所 当数所日

: 松村vvを里・西川真美・富山亜紀子: 4名(松前町立松前中学校): 愛媛県埋蔵文化財センター(空媛県埋蔵文化財センター): 令和4年8月25・26日(木・金)

担参開開 加者場所 当数所日

松村さを里・西川真美・富山亜紀子・2名(松山市立松山南第二中学校)・・変媛県埋蔵文化財センター・愛媛県埋蔵文化財センター・











1.出版物等への資料提供

提供資料	提供先	掲載物
大久保遺跡:舶載鋳造鉄器 写真1点		シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊06『ビジュアル版 弥生時代ガイドブック』(紙版・電子版)令和5年3月刊行予定

2.展示等への資料提供

貸出・提供資料	提供先	資料使用目的		
大久保遺跡:鋳造鉄器写真1点	公益財団法人 北海道 埋蔵文化財センター	令和4年度連続講座 春季講演会「弥生文化 とは何か」での広報ポスター・チラシ掲載		
湯築城跡:土師質土器皿写真1点	港区立郷土歴史館	令和4年度特別展「"Life with ネコ"展」でのパネル展示および展示図録への掲載		
【写真】上分西遺跡乗安地区:九州型石錘出土状況 久枝II遺跡:小型環状石製品・広口壺(集合) 阿 方遺跡:護岸杭列出土状況・阿方式土器壺 持田町 3丁目遺跡:磨製石器(集合) 北井門遺跡2次調査:大 型器台 祝谷畑中遺跡:大溝完掘状況 大久保遺 跡:舶載鋳造鉄器 若草町遺跡II:遺跡全景 計10点 【図】持田町3丁目遺跡:墓地の配列1点	吉野ヶ里歴史公園	吉野ヶ里歴史公園特別企画展『よみがえる 邪馬台国』「倭人伝のクニを探るIV-邪馬台 国と有明のクニ-」でのリーフレット、展示 パネル等への掲載		
図書蔵書:雑誌『創見』『百錬』各1部	愛媛県歴史文化博物館	令和4年度テーマ展「長井敷秋氏と愛媛の 考古学」での展示		
新谷森ノ前遺跡2次:出土弥生土器1点	四国中央市 歴史考古博物館	四国中央市歴史考古博物館での展示、広報・解説資料および館内利用のための写 真撮影		
伊予国分寺跡2・4次:軒丸瓦・軒丸瓦集合写真2点	鈴鹿市考古博物館	令和4年度鈴鹿市考古博物館 伊勢国分寺 跡史跡指定100周年記念 秋季特別展「国分 寺」でのパネル展示および図録掲載		
新谷森ノ前遺跡2次:遺物出土状況写真2点	四国中央市 歴史考古博物館	令和4年度企画展『まじないの道具・いの りの空間』での展示および解説		
宮前川遺跡:庄内甕・庄内傾向甕写真2点	松山市考古館	令和4年度松山市考古館特別展「古墳時代のヤマト〜奈良県唐古・鍵遺跡から纏向遺跡へ〜」での展示、展示会に関わる印刷物(展示解説書)掲載		

3.調査研究に関する資料提供

提供資料(目的)	提供先	備考
新谷古新谷遺跡2次:当遺跡出土ガラス小玉101点の蛍光X線分析	若杉勇輝	発表日:令和4年9月10日(土)・
データ(日本文化財科学会第39回大会オンラインポスター発表	(元興寺文化財研究所)	11日(日)
『新谷古新谷遺跡出土ガラス小玉の自然科学分析』)	(几興守文化財制先別)	共著者:松村さを里

4.資料見学等の受け入れ

見学資料・対象	主体団体・講座など	実施日	人数	実施場所(対応)
センターの施設・作業の 見学	愛媛大学法文学部集中講義 「博物館資料論」 (担当:幸泉満夫 准教授)	令和4年12月26日(月)	27名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室 (柴田圭子・土井光一郎)





5.講演・講座等への職員派遣など

派遣内容	主催	実施場所	実施日	内容・対応職員
ひろしま考古学講座X	(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室	広島県立美術館	令和4年6月4日(土)	「弥生時代の広島県とその 周辺地域における石器の 流通」乗松真也
2022年度熊本城復旧 シンポジウム 特別編 「被災後追加指定!!特別 史跡熊本城跡千葉城地 区の歴史」	熊本城調査研究センター	熊本市民会館シアーズ ホーム夢ホール 大会議室	令和4年6月19日(日)	講演「国史跡湯築城跡の発 掘調査と史跡整備」柴田圭 子
2021年度出雲弥生の森 博物館 冬季企画展 「弥生墳丘墓に供えられ た食器」関連講演会	出雲市	出雲弥生の森博物館	令和4年7月2日(土)	「瀬戸内の弥生墓に供えられた土器 -伊予(愛媛県)を中心に-」松村さを里
愛媛新聞カルチャース クール「楽しく考古学 – 入門編 – 」	愛媛新聞社	愛媛県 生涯学習センター	令和4年7月9日(土)	『伊予の弥生集落』展示解 説:松村さを里
令和4年度コミュニティ カレッジ「愛媛の埋蔵文	愛媛県生涯学習センター	愛媛県	令和4年7月12日(火)	「発掘された中予の中世城 館」首藤久士
化財講座」		生涯学習センター	令和4年8月30日(火)	「貿易陶磁器からみた伊予 の中世城館」柴田圭子
2022年度 湯築城歴史	道後公園湯築城資料館	子規記念博物館	令和4年8月27日(土)	「松山平野の中世集落 -中世前期を中心に-」首藤久士
<u>塾</u>	(コンソーシアムGENKI)	4階[講堂]	令和4年11月26日(土)	「今治平野における中世前 期の集落遺跡」柴田圭子
「世界平和への祈り~古 代から現代そして未来 へ~ 鈴鹿芳康×今治の ご縁の仲間たち」 関連講座	今治市朝倉 ふるさと美術古墳館	今治市朝倉 ふるさと美術古墳館	令和4年10月16日(日)	講演「発掘された古墳や集落・今治の発掘調査について」松村さを里
福井大学公開講座	福井大学	福井県三方郡美浜町 興道寺廃寺跡ほか	令和4年10月8日(土)	「国史跡・興道寺廃寺跡を めぐる-古代地方寺院とそ の周辺-」松葉竜司
令和4年度 みはま土曜歴文講座	美浜町教育委員会 (福井県)	美浜町歴史文化館	令和4年10月22日(土)	「古代若狭の海辺の景観(1) 〜土器製塩から考える〜」 松葉竜司
令和4年度 東予コミュニティカレッジ 「歴史講座」	愛媛県生涯学習センター	愛媛県総合科学博物館	令和4年10月30日(日)	「国道11号新居浜バイパス 関連発掘調査の最新成果」 首藤久士
令和4年度考古学リレー 講座『発掘 松山の至宝』	公益財団法人 松山市 文化・スポーツ振興財団	松山市考古館	令和4年11月5日(土)	「松山平野の鉄製農具と農 耕社会の画期」石貫弘泰
西条市考古歴史館 「考古学講座」	西条市考古歴史館	西条市考古歴史館	令和4年11月13日(日)	「西条市安用北竹ノ下I・II 遺跡の発掘調査成果」 池尻伸吾
2022年度湯築城資料館 20周年事業 湯築城資料 館ボランティアガイド 養成講座 「今日からまなぶ湯築城 と河野氏の歴史」	道後公園湯築城資料館 (コンソーシアムGENKI)	松山市立 子規記念博物館	令和5年2月19日(日)	第3回「湯築城跡の発掘調査と成果」柴田圭子
お仕事フェスタ2023	学校法人 河原学園	アイテムえひめ 大展示場	令和5年3月4日(土)· 5日(日)	職業紹介:首藤久士・山 口莉歩

6.職員の委員等就任状況

職員名	委員名	期間				
	松山市文化財保護審議会委員	令和3年4月1日~令和5年3月31日				
	今治市文化財保護審議会委員	令和2年11月1日~令和6年10月31日				
柴田圭子	砥部町文化財保護審議会委員	令和4年4月1日~令和5年3月31日				
	道後公園(史跡湯築城跡)整備検討委員会委員	令和2年9月1日~目的を達するまで				
	史跡能島城跡調査・整備検討委員会委員	令和4年4月1日~令和5年3月31日				
松葉竜司	美浜町歴史文化館運営委員(福井県)	令和4年8月19日~令和6年3月31日				

7.各種団体への職員派遣など

内容(依頼団体)	派遣先	日時	対応
フリーセッション「文京遺跡解明のための諸問題」 ゲストスピーカー (愛媛大学埋蔵文化財調査室)	愛媛大学ミュージアム	令和4年5月2日(月)	松村さを里
史跡湯築城跡遮蔽土塁石積みの境界確認現地調査 (愛媛県中予地方局建設部特定事業課)	道後公園(史跡湯築城跡)	令和4年6月29日(水)	柴田圭子・石貫弘泰・ 山口莉歩
地域まるごと博物館事業に伴う現地指導 (松野町教育委員会)	松野町埋蔵文化財センター	令和4年7月12日(火)· 11月15日(火)·令和5年 2月15日(水)	柴田圭子
平成29・30年度伊予市内採集遺物についての調査 指導(伊予市教育委員会)	(当センター施設で対応)	令和4年7月15日(金)· 10月13日(木)	石貫弘泰・沖野実
道後公園(史跡湯築城跡)デジタルコンテンツ制作 に関する事項(愛媛県土木部都市整備課)	道後公園	令和4年10月14日(金)	柴田圭子
伊予国府探索事業に対する協力、助言 (今治市教育委員会)	今治市中寺 大町廃寺遺跡	令和4年11月2日(水)· 15日(火)	眞鍋昭文
国指定史跡能島城跡保存整備事業:南部平坦地の 発掘調査に関する事項(今治市教育委員会)	史跡能島城跡	令和5年2月2日(木)	柴田圭子
高見I遺跡出土サヌカイト製品の産地分析 (奈良県立橿原考古学研究所)	岡山理科大学	令和5年2月9日(木)	沖野実
松山大学経済学部講義「地域史(1)」·「地域史(2)」 非常勤講師(松山大学)	松山大学	令和4年度通年(前期· 後期):毎週木曜日4限	乗松真也

8.図書資料の収集・登録・貸し出し

関係団体が発行する報告書・埋蔵文化財関連書籍等を収集し、登録・保管(令和4年度新規登録図書数: 1,908冊・総登録数:79,750冊)のうえ、大学はじめ関係者等への貸出を行った。



9.ホームページ・Twitterによる情報発信

公式ホームページ、および令和3年度より運用を 開始したTwitterアカウントから、業務におけるト ピックやエピソード、共催展の告知・報告等の情報 発信を行った。



(公財) 愛媛県埋蔵文化財センター

@ehime_maibun

(公財) 製焼県埋蔵文化財センターの公式Twitterです。主に発掘現場・展示などに 関する情報を発信します。返信は原則行っておりませんのでご了承ください。地方 自治体や博物館、埋蔵文化財の関係機関に限りフォローします。運用ポリシーにつ いてはこちら ehime-maibun.or.jp/SNSpolicy.pdf

- ② 愛媛県松山市衣山4丁目68番地1 ② ehime-maibun.or.jp
- 2021年6月からTwitterを利用しています

47 フォロー中 491 フォロワー

役員等(令和五年三月末日現在)

前園 實知雄

奈良芸術短期大学特任教授、法蓮寺(東温市)住職

奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員

聖カタリナ大学非常勤講師、元松山東高校長

栗田 正己

愛媛新聞社常務取締役 常務執行役員

監事 宇都宮 欣毅

愛媛大学名誉教授

名本 二六雄 愛媛考古学協会名誉会長

愛媛銀行常務取締役

松前町教育委員会教育長

豊田 将光

仙波

愛媛県教育委員会副教育長

令和四年度職員(令和五年三月末日現在)

事務局長

藤田享

常務理事

(公財)愛媛県埋蔵文化財センター事務局長

公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団

松山市立埋蔵文化財センター所長 兼 松山市考古館長

西山

愛媛県教育委員会文化財保護課長

調査課長

調査課

事務補助員

専門事務員·担当係長 総務課長(事務局長が事務取扱)

河野有美

藤田享

芳野伸吾

芝加納子

柴田圭子

真鍋昭文

三好裕之

乗松真也

松葉竜司 藤本清志

専門調査員・担当係長

松村さを里

池尻伸吾

西川真美 土井光一郎

主任調査員 専門調査員

石貫弘泰 首藤久士

沖野実

山口莉歩 石貫睦子 増田晴美

調査員

佐藤直人 青木聡志

岡美奈子

佐野祐樹 中野邦子 岡本真治 富山亜紀子

古谷里砂子 稲田亜希

調査助手

主任調査助手

令和四年度に刊行した書籍(調査報告書以外)

45年のあゆみ」 ○「公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

○「愛比売」令和三年度年報

○「紀要愛媛」第18号



2022(令和4)年度年報 〜発掘調査事業および普及活動事業の記録〜

2023(令和5)年5月

編集・発行 公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

〒791-8025 愛媛県松山市衣山四丁目68番地1 TEL(089)911-0502 FAX(089)911-0508

印 刷 アマノ印刷有限会社



http://ehime-maibun.or.jp/



https://twitter.com/ehime_maibun